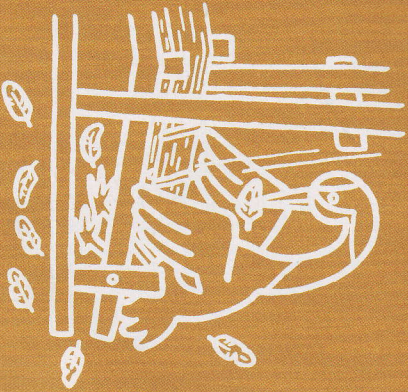
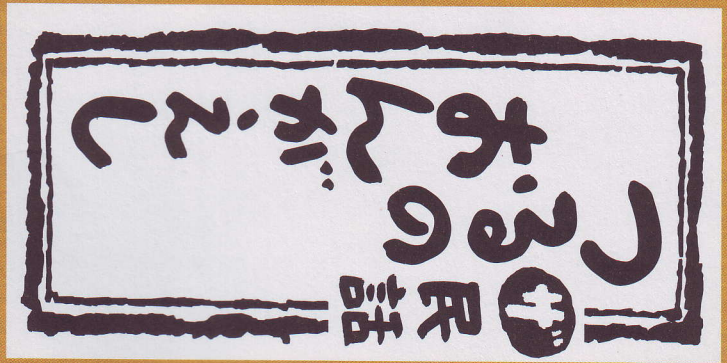
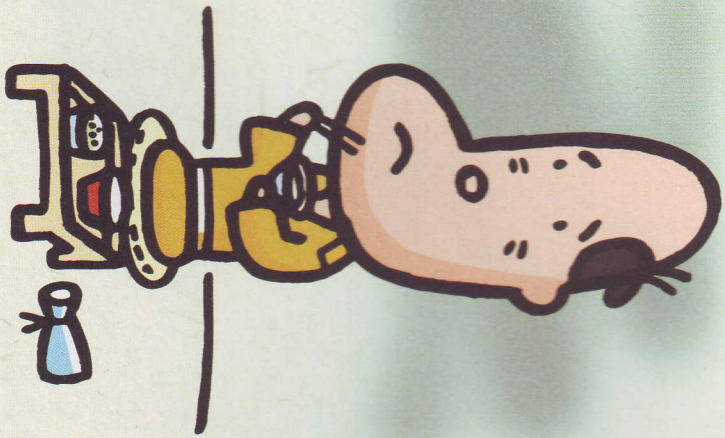


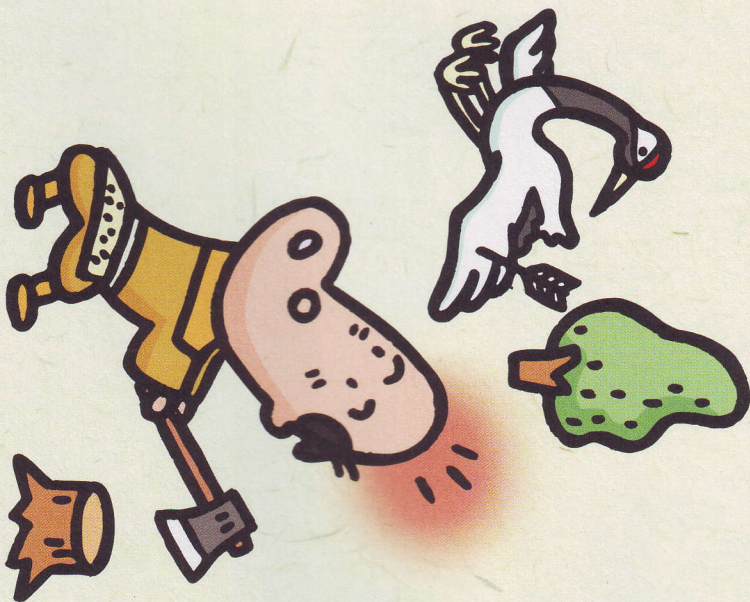
2006年  
11月



بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ  
رَبِّهِمْ

おかし。  
松の おひに おひにとも おか松とも  
はやくに じにねかれ たった ひんじ  
へいあ ねかまのが ねった。





うたそのに こまを 拾ひし ねこだ。  
こはをを はたはた せせし

でせん。  
はねに やが せせし とろにやか  
みるよ それは しかねの ころだ

おるひ。  
やまで をを せせし 拾ると  
めい ままに ひなひなと ころし  
ものか 拾ひてきた。

「かかしさん」

かかしは、ちがって、やを、ま、

ぬ、じ、や、る、と

こ、る、ま、だ、じ、つ、だ、に、か、ね、く、あ、り、し

こ、ぬ、だ、じ、あ、ち、で

あ、ち、く、あ、ま、あ、り、ま、し、た、

こ、う、に、な、つ、た、の、だ、ら、る、の

こ、る、は、い、れ、し、る、に、は、だ、は、だ、と

は、は、だ、を、し、つ、み、せ、た、

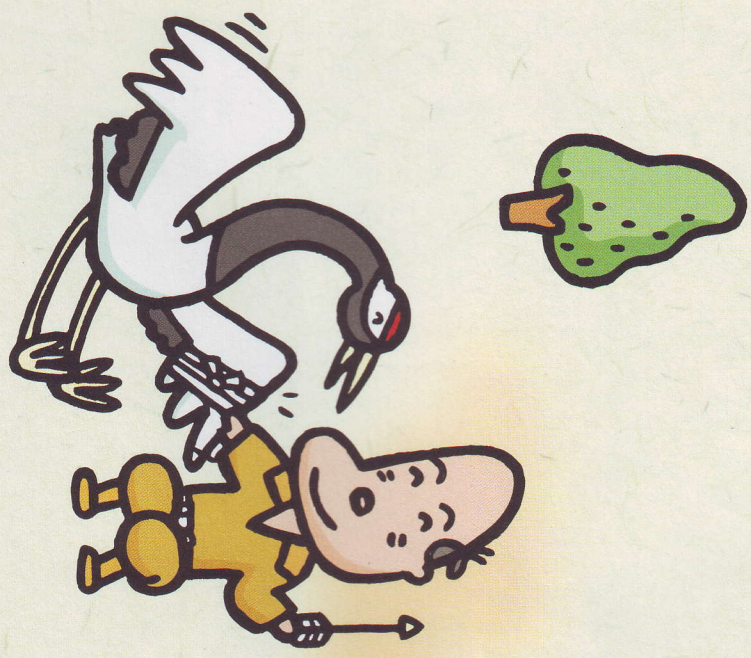
ね、か、ま、の、か、こ、る、を、せ、し、め、け、し

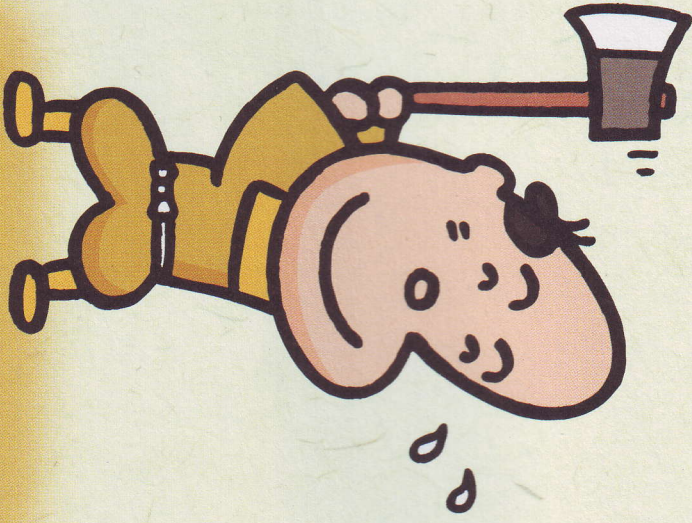
ほ、こ、と、ま、う、く、は、な、じ、つ、や、る、と

そ、の、ま、ま、ま、の、た、か、く、ま、し

こ、る、は、か、い、と、ひ、と、に、あ、な、じ、

な、じ、の、あ、し、ま、い、に、と、い、ひ、し、た、





「おぼいしは、じじかはおかじだ。」

「さんとおのかがるくなこ」

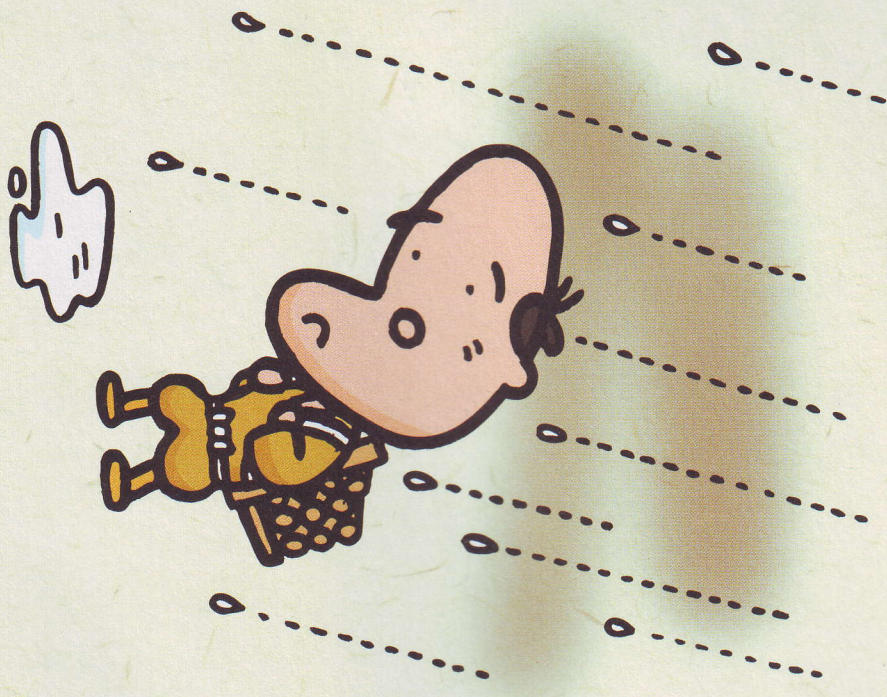
「おぼいしは、おぼいしとおぼいしだ。」

「おぼいしとおぼいし」

「おぼいしとおぼいしのおぼいし」

「おぼいし」

なんにちか たった ほんひ。  
 やまじいとき じいさん  
 じいば じいば ほんひ。  
 「おほ こんばんはに ほんひに だれかが  
 まっしんじいば ほんひ」



「せしむらしたにやだか」

へびを かじらばかみとを 捨てるよ

そのにせ 捨てるよとに くの くの

いんべしじ せすめか たておつた。

ねかものは たまけて

いそを まちかえたか と 想わして

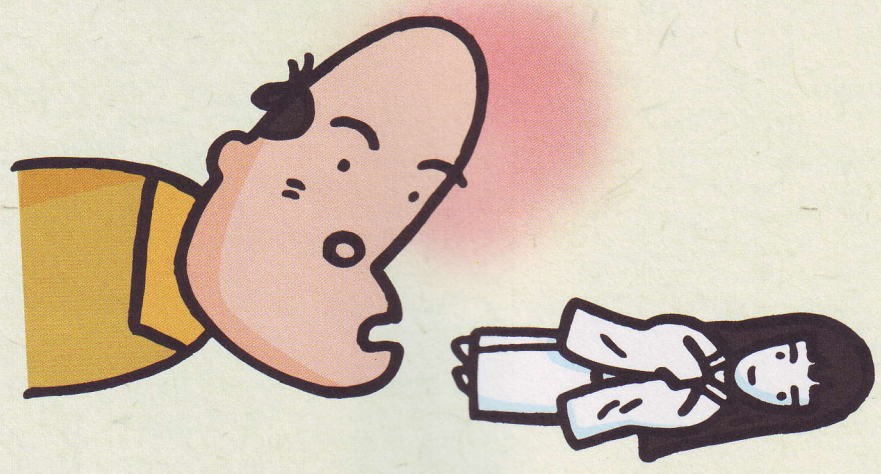
みまねしたか せはひ じぶんの 口ちに ちがい なかつた。

せすめは はさかしてそのに

「わたしは せすめをせまの せすめをせまに

してほし」と せすめに にくく せす

まひりました」と けつた。





それから「おねせなひがこいだが  
あるひのこと。

とめさまが

「おなごははたをねるもの。」

どなかはだはをたてこへたさひ」

といつた。

おそみどおひこをたて

はたをすまじやると

とめさまはよるこんでそのひから

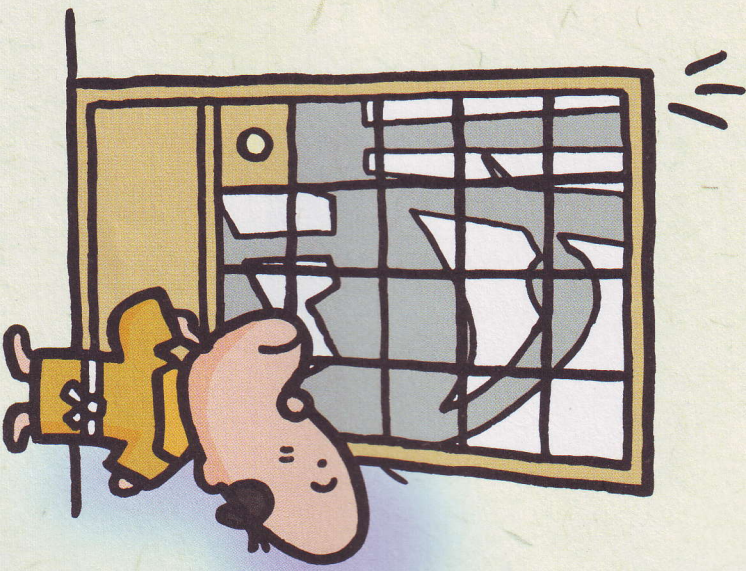
はだはにほいだがそのとき

「なのかおひだけして」

おそいこはひけません」と

といおいてとき

びたひとたてこしまつた。

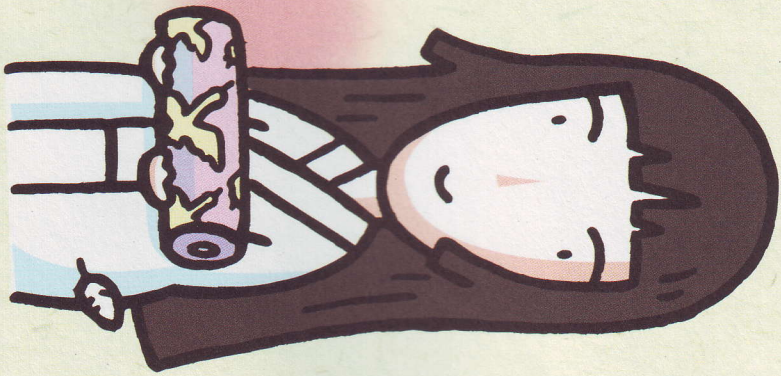


きこたん ぱたどん  
きこたん ぱたどん

それから まいにち はたを おる  
おどか やまに ひびき たんに  
ひびいて きこえたど。

なのかか あきると はだはの  
どか ぬいて ぐぬさまが できたら。  
にはは みたこともない

いんべいし ぬのを もっておっだが  
そのあかたは あいんべいしと やせておっだが。



「おかた」  
 としたくきしたねまのは  
 ななつのやまをこえて  
 おしるゆるまをまでやっきた。

「おねねおまねおまねのゆるを  
 のびにうっておしだした。  
 じまにうかひしんまじしと  
 ねだんをうけてはなひませんよ」



たぐさるひが 100%の 顔面

まで 100%だぞ ぞ。

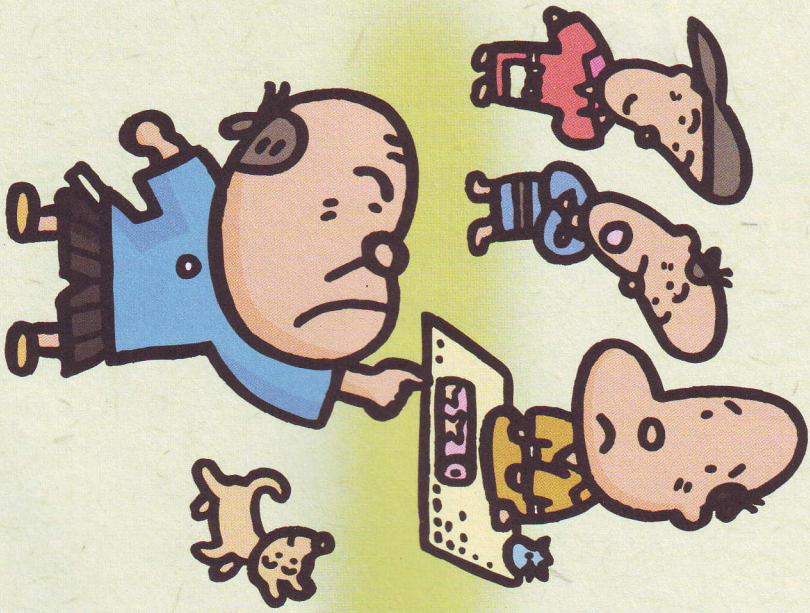
はよ ちぬまに したれた とおひ  
なかせは 100% 100%だぞ。

そく 100%は せむひが だぞと  
100% 顔面 100% 100%

100% 顔面 100% 100%  
100% 顔面 100% 100%

100% 顔面 100% 100%

100% 顔面 100% 100%





おっのやまをこえ

とんやへせいじのやまをこえたとき

とめさまのおおるはだのおどが

ひびいてきこえてきた。

きこたんはたとん

きこたんはたとん

それにしてもふじきなはなし。

わかものはそつちちまでまいもどり  
こほんをおくしるはだにすわって  
いごをくみながらめをとじた。

「とめさまはのぞくなどいっただ。

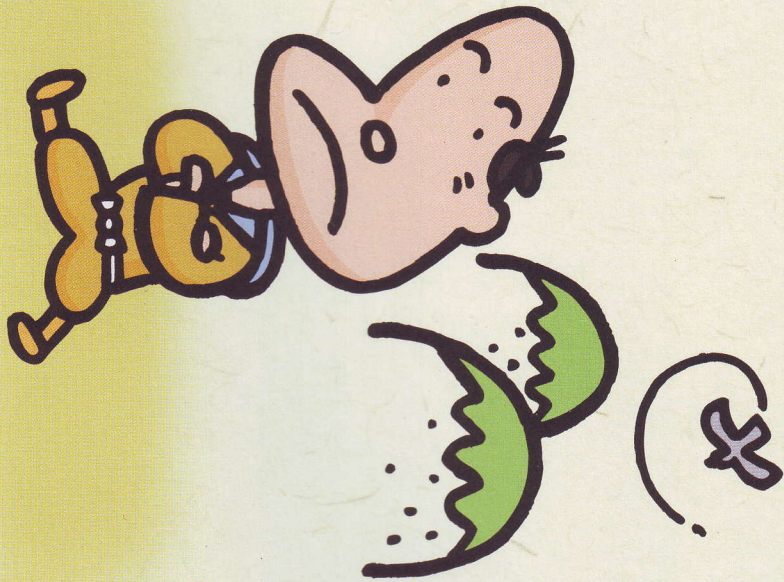
でもなせじや」

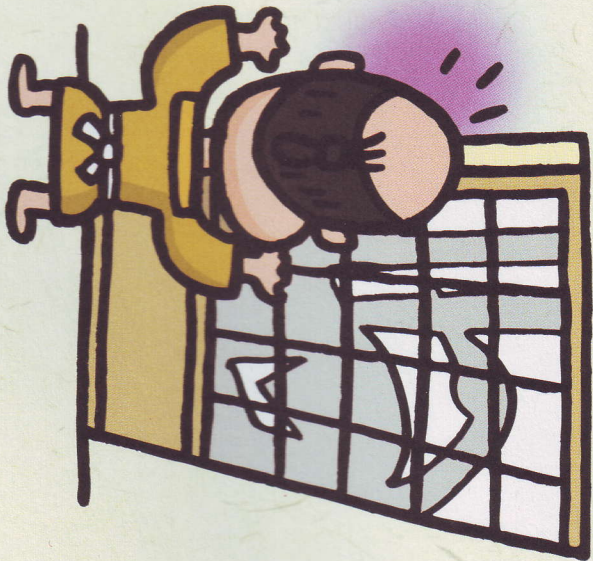
「このとめさまは

いごもだすにはだはくはいった

はじじいやって

ぬのをかいておるじやる」





そのうちにほとんども  
とまひました。

はだのおどがある。  
どのものがまんじきれんやになつて  
ねかものははだはにかかると  
どのときまにぬきおしあつて  
そつとひびいた。

はだの ままだ はだを おこせるのは  
じかぬ のる だつた。

くるは ながい くちばしで  
のころ まくながい かりだの はねを  
ひきぬいては せこたん はたとんと  
はだを おこして いるのだつた。

のちの じかん。

ねかものは めの まが まくらに  
なつて そのまま なにもかも  
ねからんよに なつてしまつた。





ちがくとしてそれに

見せほめたからだてよめさまが

ちねこにおった。

「ねたしはいつかおまをまに

いのちをたあけてもらたころです。

まじいさんおひおけて

あなたのおしをいんにして

せしおけたいとおまじおりましたか

それだけかじりぬころです」

そのいおねるとよめさまは

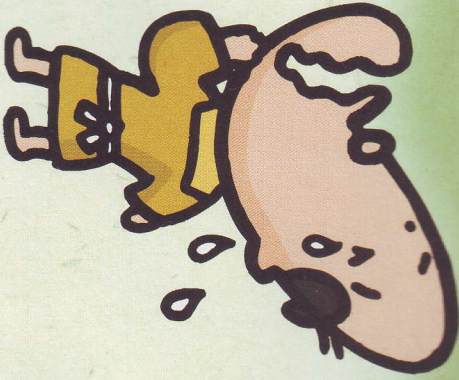
みるみるはだかのころになりたじたじと

ゆぐれのそらくまいあがった。

そのじかひかひと

かなしそのなこえをのこして

とおひそらくお見じいたじ。



## あとがき

いつの時代でも、子どもたちは民語が大好きです。本嫌いな子でも、民語なら喜んで読んでくれます。また、読んできかせてあげることできます。民語は昔ばなしとも呼ばれ、長い間に磨きぬかれた、簡易平明な語りのおもしろさのなかに、ふるさとの風の匂い、遠い祖先の知恵、夢や希望、涙と笑い、恐怖と慈愛など、いつばいのごとからを、つめこんだ「お話の宝箱」なのです。さあ、そっとその蓋をあけてごらん下さい。どこかなつかしい自然を舞台に、人が、天女が、獣が、鳥が、鬼がウロウロ、生き生きと行きかう、もう一つの世界が待っています。天狗や雪女、のっぺらぼうなど、いそいでいる不思議な妖怪たちが、あなたのですぐそばにやってくる、いきなり話しかけてくるかも知れません。この民話シリーズは、そんな物語りの臨場感を大切に作りました。どうぞ、お子さまとご一緒にとっておきの民語をお楽しみください。

発行：(株)大創産業 ㊟

広島県東広島市西条吉行東1-4-14

MADE IN CHINA

発注 民話 20

H075